
メイド様とご主人

琴音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

メイド様とご主人

【Nコード】

N8980S

【作者名】

琴音

【あらすじ】

跡取り息子の池谷屑葉いけたにくすはとその専属メイド矢野姫香やのひめかその他愉快な仲間たちがおりなす意味不明のギャグもどきの小説。

プロローグ未満あらずじ以上

俺、池谷屑葉いけたにくずははただいま絶賛休みの日の朝のダラダラを満喫中である。この後どうしようか、ゲームしようかマンガを見ようかもうつそのこと3度寝をしようか。そう思った瞬間

「起きろご主人！！！」

そんな声とともに俺の部屋のドアがバーンと勢いよく開けられた。そして開けられたドアから姿を見せたのは仁王立ちで不機嫌そうな少女、矢野姫香やのひめかがいた。こいつは行動や発言そして名前からも想像がつかないが俺専属のメイドである。まあ一応メイド服を着てるからメイドに見えないことはないけど、口を開けばただのDS少女である。どこの世界にご主人さまに向かつて「あ あ？」といいながら睨んでくるメイドがいるんだ。世の中にはツンデレのメイドとかがいいと言うやつもいるがそんな生ぬるいもんじゃない。アレはメイドという名の女王様だ。俺だって望んでこんなメイドを雇ったわけではない。こいつを選んだのは俺の両親だ。この姫香はMID協会という訳の分からない協会に属しているメイドだ。この『MID』とは

M：全く駄目なのちに会社や何らかを継ぐことになる人間を

I：命に代えても立派な主人に教育し

D：駄目な主人から立派な主人にする協定

略してMID協定なのである。俺は父さんが経営してる会社の跡取り息子なのだ。なのにもかかわらず俺は好きなものは2次元、今努力していることはどうすれば液晶をどかせるかというダメ人間なのだ。そんな俺を見かねた両親は俺を立派な主人にするために姫香を呼んだのだ。

「あと5分ー。」

「何をベタなセリフをはいている。このまま永眠させてやるうか？」
「そういうと姫香は俺の頬に黒い何かをつきたてた。」

「うを！？なんでお前拳銃もってんだよ！！！」

「おまえが起きないから悪いんだ。そしてなんかムカついた。」

「いや、知らねえよ！！！！お前の私情で殺されてたまるか！！！」

「えー」

「えーじゃない！！！」

「全く、冗談が通じないご主人だな。これだって本物じゃないエアガンだ、ホレ」

「そうと姫香は俺にエアガンをパンパンと撃ってきた。これなら本物じゃないから死なないし安全だね」

「っておい！！エアガンでもあたると痛いから！！！！人に向けちゃだめって説明書にも描いてあるでしょうが！！！！・・・てかそのご主人って呼び方なんだよだったら様をつけるよ」

「ヤダ」

「即答ですか・・・。」

「当たり前だ。おまえはまだ私にふさわしいご主人さまになってないからな」

「じゃあいつになったらなれるんですか」

「今のお前だったら到底無理だな。もっとうご主！！！！って感じにならなきゃだめだ」

「アバウトだな。おい。」

「姫香が来てから約1週間毎日こんなような言いあいをしている。」

「とにかく、おまえが頑張れば私はいつだって様付けで呼ぶし敬語にもなる。何回も言っているじゃないか」

「確かに姫香はこのセリフを何回も言っている。けどその頑張りがよくわからないのだ。姫香に聞いても「そんなものもわからないとはバカめ。」と言われ鼻で笑われるだけなのだ。これが頑張り次第で敬語になったりなんて想像ができない。自分でも考えてみるけどいつも結論は「まあいいや」だ。姫香曰くその無気力さが駄目らしい

のだがこんなもの性格なんだから仕方がない。まあそのうち姫香の
言ってることもわかる日が来るだろうしそこまで待とう。そう思っ
て俺は布団に入り寝る体勢を とろうとした瞬間「この学
習能力のないバカが」という言葉とともにエアガンが俺に向かって
乱射されました。

プロローグ未満あらずじ以上（後書き）

ここまで呼んでくれた方、いるのかいないのかわかりませんが読んでくれている方がいるならありがとうございます。

小説を書いたのが初めてで文法や文の配分など全く分からずに書いたのを見にくい部分の多々あると思いますが、というより見にくい部分しかないただの駄文ですがこれから地道に書き続けていきますので気が向いたら見てくださるとうれしいです。

もし誤字脱字があれば教えてくださるとありがたいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8980s/>

メイド様とご主人

2011年10月8日18時43分発行